

安桜台自治会（関市）

郊外部

安全・安心

取組の背景

安桜台自治会は、昭和 50 年に設立され、住民 65 世帯の大半は、関市外から集まった家庭で、地元出身者の世帯はわずか数世帯である。

また、共稼ぎ世帯も多く昼間の在宅者が少なく空き巣や車上ねらい、子女等に対する声かけ等が度々発生している状況であった。

取組の概要

“キーパーソン” 自治会長 石井和典さん

平成 2 年から自治会長を務め、長年、地域の安全安心まちづくりに取り組んでおり、また、関市老人クラブ連合会会長を務め、平成 18 年 2 月に実施された「関市子どもの安全を守る市民大会」を大会実行委員会の副委員長として実施した。

取組の内容

最初の取組として、夜間の防犯対策として、10 年ほど前から、全戸の門灯点灯を奨励し、地域を明るくし防犯抑止の取組を始めた。現在は、全戸が門灯点灯を実施している。

その後、昼間の防犯対策として、在宅高齢者で健康な人が「地域防犯」の腕章を装着して散歩時等に町内を回って来訪者に対し防犯体制を示唆し、住民の防犯意識の向上を図る取り組みを行ってきた。活動は、1 日に 3~4 人が年間約 360 日、年間を通じて行われている。

また、不審者、不審車両の早期発見のために、犬の散歩時を利用した「わんわんパトロール隊」（安桜、小瀬、下有知各地区の一部）を結成し犯罪の未然防止に取り組んでいる。

市老連の会長として全関市老人クラブに見守りの依頼・協力をするとともに、同報無線を活用した広報の実施を市へ働きかけ、他地域へも取組を広げる活動を行っている。

成果

このような地域住民の取組により、当該地区では、「声かけ事案」「車上ねらい」「空き巣・忍

込み盗」等の被害は発生しておらず、コミュニティを活性化し明るい安心して暮らせる「まち」をつくっており、防犯防止効果を高めている。

成果の要因

できる範囲で無理をせず、毎日の生活の中でできることを、地道に継続することが長く続けるコツ。通勤途中、買い物途中など短い時間の中でも全住民が防犯意識を持つことが大切。

また、自治会長が、長年、自治会長をつづけてこの取組を継続させてきたことが活動の定着の大きな要因と考えられ、行政が主導でやるのではなく、あくまで自分達のことは自分達でやるという、主体が住民中心となっていくことが重要。

今後の課題

関市においては、「関市子どもの安全を守る市民大会」を行い、市民の気運も盛り上がったが、時間がたつにつれてその意識が薄れている。常に意識を維持していくために次に何を行うかが最大の課題。

住民の防犯活動においても、意識を継続して持たせるための方策が課題である。

行政への期待

連携会議を行うことは重要だが、自由に意見が出る雰囲気ではない。また、このような会議は、何回も行うと、メンバーの固定、参加者の減少等の事態が生じる。もっと住民に意識が行きわたる効果的な方策を考えていただきたい。

警察官のOB等がもっと積極的にボランティア活動の取り組みに参加してもらえるよう県からも働きかけを行っていただきたい。

この人にお話をうかがいました！

安桜台自治会 自治会長 石井和典さん

調査日：平成 18 年 11 月 15 日（水）

調査者：中濃振興局中濃事務所 森